

四月。希望の月、不安の月。子どもは、幼稚園をたのしみとして待ったり、がっかりしたり、不安を感じたり、心の動揺のはげしい月である。親もそうである。先生だけが幼稚園のことを知っていて、ひっぱっていこうとしてもうまくいかない。子どもにあわせ、親にあわせながら、毎日をすすんでゆくのが幼稚園の四月である。

古語に「あはひ」という語がある。間という意味で、一つのもの、他のものとの間がうまく合うという状態をあらわす語であるという。田植えのときしとしと降り

ような空合いも、よい「あわい」（あんばい）であり、海に出るものにとっては、しけない日、追風の快く吹くのも、よい「あわい」であるという。また、工場で機械の「あわえ」がわるいと言ひ、機械の調子を整えることを「あわえ」と言っている地方もあるという。

最近話題になっている、びわこ学園で作られた重症心身障害児の映画「夜明け前の子どもたち」の中に、ねたきりの子ども

に、一人の精薄児の女の子が食事をたべさせる場面がある。スプーンにたべものをいれて口にもって行ってやるが、ねたきりの子どもの口にもうまうまはいらない。顔が右にゆけば右に、左にゆけば左にスプーンを動かして、何度も根気よく右左に動かしながら、ようやく口にはいるときには、観衆は思わず拍手を送りたい気持ちになる。これはたべさせる子どもが、体のよく動かない子どもに合せて動き、この二人の間に微妙なところまで動きの一致が見られるからであろう。

これも「あわい」である。これは、二つのもの間のあいかたを抽象した語として、なかなか科学的な用語であると思う。

四月はとくに、先生と子どもとがよい「あわい」を作り出すように、幼い子どもの気持ちになり、幼い子どもの動きに合わせてゆく努力と工夫が必要である。この基礎ができて、はじめて、その後の生活が目標の実現に向かってすすんでいくであろう。

(T)

幼児の教育 第六十八巻 第四号

四月号 © 定価八〇円

昭和四十四年三月二十五日印刷
昭和四十四年四月一日発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一一

印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
フレーベル館にお願いいたします